

簡易版 TP（ティーチング・ポートフォリオ）

氏名	村上 康平
所属機関名	獣医学部 獣医学科
職位	講師
在籍年	6 年

教育の責任

学科の専門教育において、獣医免疫学分野の教育およびゼミ生の研究支援を担当している。具体的には、国家試験の出題範囲である獣医免疫学、獣医免疫学実習などを分担し、またアドバンスト科目では、免疫関連疾病学の講義を主担当している。これらの授業を行う教育の責任としては、私は以下のように考えている。

- ・ 獣医師として身につけておくべき免疫学の知識を身につけさせて、社会に送り出す責任
- ・ 獣医免疫学分野の研究および教育で先導するリーダーとなるような人材の育成

教育の理念

以下の3つの理念を抱いて、日々の教育活動を行なっている。

- ・ 知的好奇心を引き出すこと
- ・ 豊かな人間性とコミュニケーション能力を培うこと
- ・ 研究を通して問題解決能力を養うこと

これらによって、卒業後も継続して自己研鑽に励む獣医師を育てていきたいと考えている。

教育の方法・方針

- ・ 論理的背景の説明の徹底

講義では、病態の歴史的背景や発症機序の説明を徹底的に行なって、少しでも学生の知的好奇心を高められるように意識している。試験は記述式で実施しており、学生の理解度の妥協を許していない。一問一答の記憶ではなく、病気が生まれる過程を理解することで、将来獣医師としての応用能力が高まり、生涯にわたって学び続ける姿勢につながることを期待している。

- ・ アクティブラーニングの実践

講義ではアクティブラーニングを実施している。学生や教員とディスカッションしながら結論を導き出す過程を経験することで、他者の様々な意見や価値観を共有する姿勢を養うことができる。これらの経験により、将来獣医師として様々な飼い主に寄り添うような人間性を育みたいと考えている。

- ・ 研究活動を通した問題解決能力の向上

ゼミ生への研究指導では、動機付けを行い、学生の主体性を高めるように意識している。研究の過程で壁に当たった際は、単に解決方法を提示するのではなく、一緒に調べて問題解決を図る。これらの過程を介して問題解決能力を高め、卒業後も発展性のある獣医師を育てたい。

教育の成果

- ・ 2024 年度の授業アンケートでは、84%の学生が満足、またはほぼ満足を選択し、「楽しかった」「勉強になった」「初めてこんなに楽しい授業だった」とのコメントがあった。

- ・ 主指導教員として卒業研究を指導した学生が学外の学会に主体的に参加して口頭発表を行い、準備や本番の過程を経て、成長できたとコメントがあった。
- ・ 主指導教員として卒業研究を指導した学生 1 名が、研究の面白みを理解して大学院へと進学し、引き続き私の元で研究を続けることとなった。

今後の目標

教育理念を実践するためにも、自らが探究心を失わずに自己研鑽に励みたい。具体的には、動物の免疫関連疾患に関連する研究成果を専門誌に発表することを継続的に行い、ゼミ生の研究環境の充実や授業内容の更なるブラッシュアップにつなげたい。モチベーションのある学生には積極的に学会発表や論文執筆をサポートしていく。

講義ではアクティブラーニングが学生に好評であり、利用できる授業内容では積極的に実施したい。一方で、内気な学生からは緊張して発言できない旨のコメントがあった。今後は mylog のアンケートや Google classroom の機能を使って、より多くの学生の積極的な学ぶ姿勢につなげていきたい。

根拠資料

2025 年度 授業アンケート

第 21 回 日本獣医内科学アカデミー 抄録集